



Title	趣旨説明
Author(s)	中野, 悦子
Relation	RA協議会第6回年次大会F-1セッション / 第8回JINSHA 情報共有会 報告書 : 異分野融合研究・プロジェクトにおけるURAの役割について考える
Issue Date	2022-04-22
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/87101">https://hdl.handle.net/2115/87101</a>
Type	conference presentation
File Information	2_RA6_F1_Nakano.pdf



# 趣旨説明

北海道大学 大学力強化推進本部 研究推進ハブ URA ステーション・主任 URA  
中野 悦子

本セッションでは、異分野融合研究・プロジェクトのあり方を、人社系研究分野の役割に注目して考えてみたい、そしてそこでの URA の役割とはどういうものなのかについて焦点を当ててみたいと考えています。

異分野融合研究や学際研究、文理融合研究など、これまでも繰り返し議論されている大きなテーマではありますが、近年、特に異分野融合研究に人文・社会科学系研究分野の参画が求められるようになってきています。

象徴的なのが、「科学技術基本法」から「科学技術・イノベーション基本法」への改正ですが、それ以前にも JST 等の大型プロジェクトのチーム・ビルディングに人社系研究者の参画が求められることがよく見られました。海外では、欧州連合（EU）の「責任ある研究・イノベーション」（Responsible Research and Innovation/RRI）という考え方や、OECD（経済協力開発機構）による「社会課題解決のためのトランスディシプリナリー研究」で、人文・社会科学分野の役割が積極的にうたわれるようになってきています。この背景には、1960 年から 70 年代に始まった科学技術への懐疑や、それに対する新しい潮流としての ELSI（Ethical, Legal and Social Issues）の問題、あるいは、地球規模の課題に一日でも早く解決したいという社会からの要請があるのではないかと考えております。

とはいいいながら、私たち URA が日常的に業務を行う時や、研究者自身が日々の研究を行う中で、そういった要請に個別に応えていくというのは簡単なことではありません。また、既に関わっている場合であっても、どうしたら成功に導けるのか、そもそもどうなれば「成功」と言えるのかに明確に回答することは難しいと思います。そこで、今回は、既に様々な形で実施され、成果を上げている四つの取り組みについてご講演いただきます。

まず、京都大学と新潟大学から、それぞれ学内ファンドで取り組まれている

事例についてご発表いただきます。大阪大学からは、2020年4月に設立された社会技術共創研究センター、通称 ELSI センターの目指すものとその取り組みについて、そして、最後に、総合地球環境学研究所の学際研究評価の取り組みについて、それぞれお話しいただきます。

こういった具体的な事例を通して、そこにあらわれてくる人社系研究の役割や意義、さらには、そこでの URA の役割をどのように考えていくかというのが、本セッションの趣旨となります。

なお、このセッションは、第8回 JINSHA 情報共有会として、人文・社会科学系 URA ネットワーク幹事校と共同実施になっております。この人文・社会科学系 URA ネットワークとは、「人文・社会科学系研究推進フォーラム」を連携して企画・開催している人社系 URA の大学をまたがるネットワークです。2020年10月には、第6回人社フォーラムとして、同様のテーマで多様な方向からの講演と、それを踏まえたワークショップを開催いたします。講演とワークショップは別日になっています。講演はもちろん、ワークショップもまだ少し定員まで余裕がありますので、もしよろしかったら登録のほうをよろしくお願いいたします。



RA協議会 第6回年次大会 F-1セッション  
(第8回JINSHA情報共有会)

## 異分野融合研究・プロジェクトにおける URAの役割について考える

セッション担当：  
北海道大学 大学力強化推進本部 URAステーション 中野 悦子  
セッション実行委員：  
神戸大学 学術研究推進機構 学術研究推進室 平田 充宏

開催日時：2020年9月18日（金）10:45～12:15

### プログラム

10:45-10:50

Webex説明 平田 充宏（神戸大学 学術研究推進機構 学術研究推進室  
リサーチマネージャー）  
趣旨説明 中野 悦子（北海道大学 URAステーション 主任URA）

10:50-11:55

講演

- 1) 稲石 奈津子 氏  
(京都大学 学術研究支援室 シニアURA)
- 2) 久間木 寧子 氏  
(新潟大学 研究企画室 主任URA)
- 3) 岸本 充生 氏  
(大阪大学 データリテリオリティ機構 教授)
- 4) 押海 圭一 氏  
(人間文化研究機構 機構長室 特任助教)

11:55-12:15

質疑応答&登壇者とフロアのディスカッション

## セッション趣旨（1）現状と背景

### 日本でも人社系研究分野が参画した異分野融合研究・プロジェクトが求められるようになってきている

#### ○「科学技術基本法」から「科学技術・イノベーション基本法」へ

- ✓ それまで、科学技術を「人文科学のみに係るものを除く」ものと定義
- ✓ 改正により、人文学・社会科学を科学技術から除くという記述が削除
- ✓ 人社系のみにかかる科学技術も基本法の対象
- ✓ 基本法の振興対象として新たに加わった「イノベーション創出」に、人社系研究分野が関わることも想定

[https://www.cao.go.jp/houan/pdf/201/201\\_2gaiyou.pdf](https://www.cao.go.jp/houan/pdf/201/201_2gaiyou.pdf)

#### ○ 先行する国際機関や海外での取り組み例

- ✓ 社会課題解決のためのトランスディシプリナリ研究（TDR） by OECD  
※TDR: ① **人文・社会科学分野**及び自然科学・工学がそれぞれ参画  
②従来の産学連携を超えた、多様なステークホルダー（特に非アカデミアの）参画
- ✓ 責任ある研究・イノベーション（Responsible Research and Innovation（RRI）） by EU  
FP6～Horizon2020へ。**人文学・社会科学（SSH）**の役割  
“Embedding SSH research across Horizon 2020 is essential to maximise the returns to society from investment in science and technology.”  
<https://ec.europa.eu/programmes/horizon2020/en/area/social-sciences-and-humanities>

### 背景として、複雑化する地球規模の課題解決の要請 科学技術先行への社会の懐疑と責任ある発展への模索

（参考）神里達博「社会は科学や技術とどこまで付き合おうか：学問の分化と統合」『年報 公共政策（北海道大学公共政策大学院）』14, pp.13-27, 2020年3月  
[https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/journals/item.php?item=94224&handle=2115\\_78231&name=300&vname=6547](https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/journals/item.php?item=94224&handle=2115_78231&name=300&vname=6547)

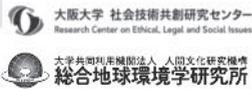
## セッション趣旨（2）問いと方法

### では、どうすれば人社系が関わる異分野融合研究・プロジェクトが「成功する」のか？ URAとして、どのように携われればよいのか？



### 実際に実施された／されている事例から出発

## セッション趣旨（3）4つの講演



□学内ファンドで取り組まれる融合プロジェクトのうち、人社系研究が参画するものに注目

- 1) 京都大学
- 2) 新潟大学

□自然科学系大型プロジェクトに人社系が貢献する連携の在り方の検討

- 3) 大阪大学・社会技術共創研究センター

□学際プロジェクトの評価方法をその取り組みから考える

- 4) 総合地球環境学研究所



### 事例に現れる共通点や相違点から

### 人社系研究の役割や意義、URAの役割を考える

## 人文・社会科学系URAネットワークとは

- ✓ 人文・社会科学系研究推進フォーラム（人社系フォーラム、2014年発足）を連携して開催している幹事校・8大学のURAのゆるやかなつながり
- ✓ イベント開催や情報共有等の活動基盤として機能。年に1度のフォーラム開催に加え、より緊密な情報交換の場として、JINSHA情報共有会を年に数回開催（今回のセッションは第8回JINSHA情報共有会）
- ✓ 活動は JST・研究開発戦略センター(CRDS) 戦略プロポーサルでも紹介  
「自然科学と人文・社会科学との連携を具体化するために－連携方策と先行事例－」  
／CRDS-FY2018-SP-01」  
<https://www.jst.go.jp/crds/pdf/2018/SP/CRDS-FY2018-SP-01.pdf#page=76>
- ✓ ネットワークメンバーは以下8大学に所属するURA（2020年8月現在）

大阪大学 経営企画オフィス URA部門  
 京都大学 学術研究支援室 (KURA)  
 筑波大学 URA研究戦略推進室／人文社会国際比較研究機構 (ICR)  
 早稲田大学 リサーチイノベーションセンター 研究戦略部門  
 琉球大学 研究推進機構 研究企画室  
 北海道大学 大学力強化推進本部 URAステーション  
 横浜国立大学 研究推進機構  
 中央大学 研究支援室



